

第 4 回精華町障害者基本計画策定委員会 記録

日時	平成 31 年 1 月 21 日 (月) 午後 1 時 30 分～
場所	精華町役場 6 階審議会室
出席者	樽井会長、坂東副会長、岩井委員、遠藤委員、大平委員、尾崎 (伸) 委員、尾崎 (万) 委員、北尾委員、櫻木委員、杉山委員、高橋委員、田中委員、藤村 (修) 委員、細見委員、山内委員、吉村委員、傍島委員 (オブザーバー)
次第	1 開会 2 議事 (1) 「精華町第 2 次障害者基本計画【改定版】」の素案について 3 その他 4 閉会

1 開会 18 名の委員について 16 名が出席されており、条例 (精華町障害者基本計画策定委員会設置条例) に基づき、会議の成立を確認した。 「精華町審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、会議公開、委員名を示して記録を作成公表することについて、了承された。	
2 協議 資料 1～2 について事務局より説明があった。	
会長	「平成」の表現について 2 ページの元号について、改元が決定しているが、平成 31 年度以降も「平成」でよいのか。
事務局	町の方針としては、今年度までに策定される計画については「平成」で記載する方針である。
吉村委員	「援助職の障害の理解と対応力の向上」の表現について 22 ページに「援助職の障害の理解と対応力の向上」とあるが、内容をみると「保育士や幼稚園教諭、教職員、福祉専門職等に」と記載されている。見出しを「援助職・教育職の障害の理解と対応力の向上」に修正してはどうか。
事務局	また、「障害種」とあるが、「障害別」や「障害種別」にしてはどうか。 「障害種」については、障害の種類という意味で記載している。適切な表現があれば、ご意見をいただきたい。
遠藤委員	当事者の立場からいうと、障害別と障害種別を使い分けている。障害別は身体障害、知的障害、精神障害等の障害の種類を示す。障害種別は上肢障害、下肢障害といった障害の部位を示す。
会長	案として、「援助職等」にしてはどうか。最終的な表現については、事務局で検討させていただくので、案があれば教えていただきたい。 「障害種」についても、あまり使用されない表現なので、遠藤委員の意見も踏まえ、事務局で検討させていただく。
岩井委員	28 ページの修正について 28 ページの「コミュニケーション支援の充実」について、「年 1 回の手話通訳養成講座」とあるが、正しくは「手話奉仕員養成講座」なので修正をお願いしたい。また、「府の手話通訳養成講座」とあるが、「府の手話通訳者養成講座」

事務局	に修正をお願いしたい。 ご指摘のとおり、修正させていただく。
尾崎(万)委員	<p>23 ページの修正について</p> <p>23 ページの「教育相談の実施」について、「学校の校内委員会で」とあるが、「小・中学校の校内委員会で」に修正をお願いしたい。 また、「特別支援教育の推進」について、「特別支援コーディネーター」とあるが、「特別支援教育コーディネーター」に修正をお願いしたい。</p>
遠藤委員	<p>計画目標 [3] 差別や偏見のない、地域共生社会の表現について</p> <p>18 ページの計画目標の「[3] 差別や偏見のない、地域共生社会となっている」について、「障害と障害のある人への理解が浸透し、差別や偏見のないユニバーサルなまちと地域社会を目指します。」とあるが、「差別や偏見のない」に虐待は含まれているのか。</p>
事務局	広く権利擁護という意味で記載している。権利擁護には虐待も含まれていると考え、施策にも含めているが、虐待防止も表現に含めるよう検討させていただく。
遠藤委員長	「差別や偏見等のない」にしてはどうか。 見出しでは「地域共生社会」となっている一方、「ユニバーサルなまちと地域社会」になっている。統一すべきではないか。
事務局	「ユニバーサルなまちと地域社会を目指します。」については、ユニバーサルなまちや社会をつくるという意味で記載している。そのため、「ユニバーサルなまちと社会を目指します」が適切だと考えている。 虐待については、「差別や偏見、人権侵害のない」という表現ならば、虐待も含めた広い意味になると考えている。
櫻木委員	<p>21 ページの表現について</p> <p>21 ページの「早期の療育と養育家庭への支援」について、「障害児福祉サービス」とあるが、あまり耳にしない表現である。「障害児通所給付費」が制度上の表現になるが、特別な理由があつての表現なのか。</p>
事務局	本来の国の制度であれば指摘されたとおりである。一方、ここでは、制度に含まれない部分も含め、広く障害児に関する福祉サービスを広めていきたいと考えている。適切な表現について検討させていただく。
山内委員	<p>「ユニバーサルなまち」の記載箇所について</p> <p>18 ページの計画目標の「[3] 差別や偏見のない、地域共生社会となっている」について、1つ目の○に「ユニバーサルなまち」とあるが、記載内容を考慮すると、2つ目の○に記載する方がよいのではないか。</p>
事務局	1つ目の○はハード面、2つ目の○はソフト面の内容を示したいと考えている。 「ユニバーサルなまち」はハード面の整備を意味していると考えているが、事務局で検討させていただきたい。
山内委員	京都府では「心のバリアフリー」という表現を使用している。参考にさせていただきたい。
事務局	施策7から施策9に係る内容であるが、施策9が「ユニバーサルなまちづくり」となっているため、つながりを見せるために「ユニバーサル」という表現を使用している。ご意見を踏まえて、全体のバランスも考慮して修正させていただきたい。

<p>杉山委員</p>	<p>「ボランティアセンター」の現状について</p> <p>15 ページの「[4] 福祉人材の育成・確保」について、「より広い『住民ボランティアセンター機能』との整理を図って」とあるが、現在「住民ボランティアセンター」はあるのか、あるいはこれから作っていくのか。</p> <p>また、32 ページに「住民主体による諸活動を促進するとともに、精華町社会福祉協議会が運営するボランティアセンターの機能を拡充する中で」とあるが、拡充の具体的なイメージを教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在、総務部局が住民協働に関係するボランティア人材育成を進めており、そちらで住民ボランティア全体の機能整備が進められている。また、現状においては整合性を図っていくという担当課へのヒアリング結果を踏まえて、このような表現になっている。</p>
<p>山内委員</p>	<p>「福祉避難所の実稼働」について</p> <p>30 ページに「福祉避難所の実稼働」について、マニュアル整備や避難訓練は行われているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>マニュアル整備は精華町地域障害者自立支援協議会の住民参加部会で進められているが、具体的な形まではできていない。</p> <p>避難訓練については、町全体の防災訓練もあるが、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターとの防災訓練、福祉避難所の設営訓練を行っている。これからも訓練は進めていきたい。</p>
<p>山内委員 事務局</p>	<p>より具体的に記載してもよいのではないかと。 マニュアル整備等を記載できるよう、検討させていただきたい。</p> <p>「ユニバーサル」や「差別や偏見のない」といった表現については、現在策定中の第 3 次精華町地域福祉計画が上位計画となるので、そちらとの整合性を図らせていただく。</p>
<p>次回委員会の日程について</p> <p>第 5 回策定委員会 日時 平成 31 年 3 月 25 日（月）午後 予定 場所 精華町役場 審議会室</p> <p>精華町地域福祉計画策定委員会と同日開催である。日時については調整の上、後日、連絡させていただきます。</p>	